

『鹿嶋力』 見つけた

市長エッセー No.72

11月以降、市内での新型コロナウイルス感染者が増加しています。過日、大井川県知事から、人口1万人当たりの新規陽性者数が1.5人以上の市町村を県が独自で位置づけている「感染拡大市町村」に本市が追加される旨の発表もありました。

先月号では、私もイベントなどを全て中止にするのではなく、工夫しながらできる取り組みを進めると申し上げましたが、市内での感染が広がっている現状では、市

民の皆さまの命と健康を優先させる判断をせざるを得ないと考えております。

市としても、県や潮来保健所との連携を密に情報収集に努めながら、更なる感染拡大防止に努めてまいります。

今年も残すところあと2週間余りとなりました。

今年も、市民の皆さまの生活が一変し、様々な部分で我慢を強いられ、不安やストレスを抱えることも多かったことと思います。そのような中、皆さまのご理解とご協力を頂き、感染拡大防止や経済支援を中心に市政運営を進めることができました。心から感謝申し上げます。

来年も、この難局を乗り越えていけるよう市一丸となって取り組んでまいります。皆さまも引き続き新しい生活様式を実践していただき、「自らの命は自ら守る」という強い意識を持って感染防止にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

皆さんも、心身ともに健やかに新年をお迎えください。

Doki Doki ~鹿嶋の文化財~ セレクション NO.20

地中に埋もれていた仏像

平成31年1月15日、史跡鹿島神宮境内附郡家跡の一つである鹿島郡家跡の確認調査中に大きさ約10cmの小さな仏像が発見されました。

この仏像は、地蔵菩薩で、その大きさから小金銅仏と呼ばれており、一緒に出土した土器片から10世紀末～11世紀のものと考えられます。これは、インド、中国、朝鮮半島を経て、日本に伝わった仏教が、この地域にも広がっていたことが分かります。

市内では、神向寺所有の如来坐像、脇侍菩薩立像、

鉢形神宮寺経塚出土地蔵菩薩立像などの小金銅仏が確認されており、今回の地蔵菩薩で4例目です。

長い間地中に埋もれていたこの仏像は、保存処理の際、金箔で彩られていたことがわかりました。

皆さんも歴史ロマンを感じてみませんか？

この仏像は、どきどきセンターで1月から展示公開予定です。

鹿嶋の文化財が紹介されている「鹿嶋デジタル博物館」は、こちら→ <http://kashimashi.info/bunkazai/>



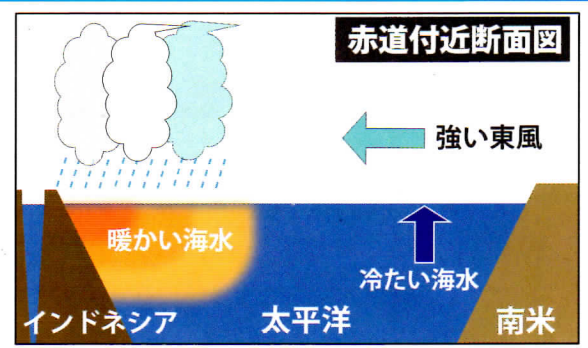
古川博士の気象コラム



古川 武彦…理学博士。元気象庁予報課長、札幌管区気象台長。退官後に「気象コンパス」を立ち上げ、気象の啓発活動などを行う。

12月21日の「冬至」を境に、太陽は高く昇り、また昼間が長くなり始めます。あちこちで庭先の柚子が黄色く色づいています。私も毎年知り合いから頂いています。

気象庁は、今冬を西日本から東日本にかけて平年並みかやや寒いと予報しています。これは、ラニーニャ現象が継続し、シベリア大陸から寒気がしばしば日本列島に南下することを意味します。ラニーニャ現象によって、赤道付近を年中吹いている東風が普段より強まり、暖か



▲冬が寒くなる原因とされているラニーニャ現象の仕組み
 い海水がインドネシア近海に吹き寄せられると、そこでは10kmを優に超える「積乱雲」が林立して上昇気流も強くなります。雲のてっぺんから吹き出す空気は北に向かい、シベリア大陸上空で下降気流となって「シベリア高気圧」を発達させ、冷たい北西風が吹くため、日本付近では冬の気温が低くなるという傾向があります。

この冬は、「柚子湯」で体を暖め体調を整えましょう。